

## 令和2年度(第59回)農林水産祭で、 西尾市の内田修二さん・聖子さん夫妻が内閣総理大臣賞受賞!

農林水産祭中央審査委員会(会長:難波成任氏)が開催され、令和2年度(第59回)農林水産祭の受賞者が決定し、**西尾市からは寺津地区を中心に米・麦・大豆を生産する内田修二さん、聖子さん夫妻が農産・蚕糸部門で全国2位に当たる『内閣総理大臣賞』に選ばれました。**

### 受賞理由

※別紙参照

家族経営における大規模水田経営と高品質・高収量麦生産の取組において、

- ① 省力化、効率化の徹底による適期作業ときめ細やかな栽培管理
- ② 高単収・高品質麦生産の実現

が評価されました。愛知県では唯一の受賞者となります。

### 取材対応日

【日時】10月20日(火) 午前10時45分集合

【場所】JA西三河 あぐりセンター西小柳  
(西尾市西小柳町4丁目605)

※集合後、内田夫妻のもとへご案内します。  
取材を希望される報道機関の方は、JA西三河企画課の尾形までご連絡ください。

※繁忙期のため別日での対応はお断りさせていただく場合がございますので、ご了承ください。



▲内田修二さんと聖子さん

「全国麦作共励会」は、麦作における生産技術の向上と経営改善の面で創意工夫がみられ、先進的で他の模範となる麦作農家・麦作集団を表彰するもの。

### 農林水産祭とは

過去1年間(令和元年7月～令和2年6月)の農林水産祭参加表彰行事(273件)において、農林水産大臣賞を受賞した465点の中から天皇杯、内閣総理大臣賞および日本農林漁業振興会会長賞を決定します。表彰は、11月23日に明治神宮会館で開催する農林水産祭式典で行われる予定。内田さん夫妻は、昨年12月に開催された「令和元年度全国麦作共励会」の個人の部で、農林水産大臣賞を受賞しました。**★麦作共励会受賞者の農林水産祭での内閣総理大臣賞は初めて。**

# 西尾市の麦生産の概要

～大規模農家の技術が支え 愛知生まれの品種で収量増～

## ■ 西尾市の麦生産 水田作プロ集団の技術力

西尾市では米の生産調整のため、昭和50年代ごろからブロックローテーション(米・麦・大豆を水田で2年間に1作ずつ生産する)が行われています。

専業農家への水田の集積が進んでおり、水田農家一戸あたりの耕作面積は非常に大規模。また、「**面積当たりの収量が高い**」ことも大きな特徴です。小麦については、反収(1反=10aあたりの収穫量)が597kgと、愛知県の平均反収(563kg)を約1割近く上回っています(2019年度産)。大規模経営を行う専業農家の高い技術力を背景に、生産性の高い農業を実践しています。

2013年からは新品種小麦「きぬあかり」の栽培を本格的にスタート。面積の拡大と合わせて産地全体の生産量も年々向上しています。2020年度産では「きぬあかり」75%、「ゆめあかり」25%を栽培する計画。ともに愛知県農業総合試験場で開発された2品種に集約し、農家所得の向上と愛知県産小麦のブランド化を図っていきます。

## ■ 愛知生まれ小麦「きぬあかり」と「ゆめあかり」

### 多収品種「きぬあかり」

2019年度は、**約1,142a(約9割)**で栽培。『絹のように明るく白い色のうどんが作れる』ことを由来に持ち、小麦粉の白さだけでなく、



「① 面積あたりの収量が高い」、「② 倒れにくい」、「③ コシのある麺が作れる」、「④ 湿害に強い」、「⑤ 収穫時期が早く、梅雨と重なりにくい」などの優れた性質を持っています。

西尾市では2013年度から生産が始まり、2015年度には面積の8割を占める主力品種に。面積の拡大と合わせて産地全体の生産量も年々向上。飲食店や食品加工業者による「きぬあかり」を利用した商品を作る動きも盛んです。

### 新品種硬質小麦「ゆめあかり」

西尾市内では2016年度より、パンなどの製造に適する硬質小麦「ゆめあかり」を試験栽培しています。

西尾市では2017年度に10a、2018年度に45aと徐々に面積を増やし、2019年度(2018年11月播種・翌19年6月収穫)は本格的に大規模での栽培をスタートさせ、**約110a(約1割)で栽培**。



新品種小麦「ゆめあかり」

### 【生産者部会情報】

名称：西三河農協農作業受託部会

部会員数：48人(米・麦・大豆の専業農家で組織)

耕作面積：〈米・麦・大豆合計〉4,200a(延べ面積)

〈うち麦のみ〉 水田1,200a・畑52a 計1,252a

麦収穫時期：5月末～6月中旬

麦荷受け量：7,970t 麦出荷量：7,650t (2019年度産:愛知県内トップ)

流通：JAのカントリーエレベーターで荷受け後、JAあいち経済連を通して各地の製粉会社へ販売されます。

製粉会社で小麦粉に加工され、食品加工業者や飲食店、小売業者を通して消費者の手元に届きます。

※全国的小麦生産量 1,037,000t (全国1位：北海道 677,700t)

愛知県的小麦生産量 31,600t (全国4位、都道府県別平均反収は愛知県が全国1位！)

### 【統計データ出典】

農林水産省 2019年産作況調査確報 麦類

農林水産省 2019年産作況調査 市町村別統計

令和 2 年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
農産・畜産部門

家族経営における大規模水田経営と高品質・高収量麦生産の取組

○氏名又は名称 内田 修二・内田 聖子

○所在地 愛知県西尾市

○出品財 経営（麦類）

○受賞理由

・地域の概要

西尾市は、愛知県南部に位置し、年間平均気温 16℃と温暖で、降水量も 1,200mm と農業生産の条件は良く、県内でも農業が盛んな地域である。水田作は矢作川左岸に広がる沖積平野と、古くから新田開発された干拓地を中心に行われており、2年3作体系のブロックローテーションによる水田の効率的利用を実現している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成 5 年に父母の農業経営に就農した後、平成 29 年に父から経営継承を受け、現在は家族 4 名と従業員 1 名で水稲 45.3ha、小麦 35.6ha、大豆 34.3ha の合計 85.3ha を経営している。また、これまで JA 西三河稲作青年部長や JA 西三河農作業受託部会理事を務め、新品種の現地実証や地域の環境整備活動等に携わるなど組織活動にも熱心である。

・受賞者の特色

(1) 省力化、効率化の徹底による適期作業ときめ細やかな栽培管理

播種作業では、アップカットロータリーを使用した耕起、施肥、播種の同時作業により、作業時間の大幅な短縮と適期播種を実現している。また、平成 18 年に近隣農家とともに導入した病害防除用無人ヘリコプターにより、労働時間の縮減と適期かつ効率的な防除を実現している。一方、敢えて手のかかる自走式コンボキスターによる確実かつ丁寧な施用や、手作業による追肥後のムラ直し等のきめ細かな栽培管理を行うことで、単収増加と品質向上を実現している。

(2) 高単収・高品質麦生産の実現

受託部会の役員として、県の農業試験場が育成した「ゆめあかり」の現地試験への協力を通して、品種特性を踏まえた栽培技術を開発した。その結果、令和元年産の小麦の 10a 当たり収量は「きぬあかり」702kg（県平均 549kg）、「ゆめあかり」649kg（同 608kg）と県平均を大幅に上回る単収を確保しつつ、1 等比率も 97.2%と、非常に優れた高収量かつ高品質な麦生産を実現している。

・普及性と今後の発展方向

高性能農業機械の計画的な整備や雇用労働力の導入による作業の省力化・効率化の工夫に加え、家族経営協定等による家族及び従業員の労働環境整備など、家族経営であっても大規模な水田経営が可能であることを示した優良な経営事例である。

今後は、高い収量と品質を維持しつつ年次変動の少ない安定した生産を実現するとともに、さらなる受託依頼への対応による地域の農地管理や、地域の農業環境の保全活動等を通じた地域貢献を目指している。